

すかい

地域を見つめる経済情報誌

長野しんきん 北信地区経済動向

2023
令和5年
6-20
No.610

「すかい」(sky: 空)は、北信地区経済の空模様を展望しながら、経済面からとらえた身近な情報をおとどけます。

月例調査レポート



野沢温泉村 郷土玩具 鳩車

昭和36年城山公園一帯で開催された、「長野産業文化博覧会」で皇太子妃美智子様
様に贈られ、一躍全国的人気を博した野沢温泉村の「鳩車」。郷土玩具番付で
「東の横綱」とまでいわれ、長野信用金庫の40周年記念誌の表紙も飾りました。
アケビや藤の蔓つるで作られ、当初は白色ですが、永い歳月を経て趣ある色おもろき
(大きい方の鳩車)に変わっていきます。当金庫は本年、創立100周年を迎えます。
令和5年生まれの純白の小鳩たちはどんな色になっていくのでしょうか。

- 長野しんきん 月例調査レポート 2
- 企業アンケート「人手不足」③ 6
- インタビュー 変革期の経営ビジョン 8
- 北信濃 明治時代の風景 (15) 権堂町・大門町・旧県庁周辺 10

「すかい」は長野信用金庫のホームページでカラー
にてご覧いただけます [長野信用金庫 すかい](#)



これからも、ずっといっしょに、このまちで



 長野信用金庫

概況 全産業

生産は2カ月ぶりの低下 前年同月比は3カ月連続の低下

◇2023年3月の長野県鉱工業指数

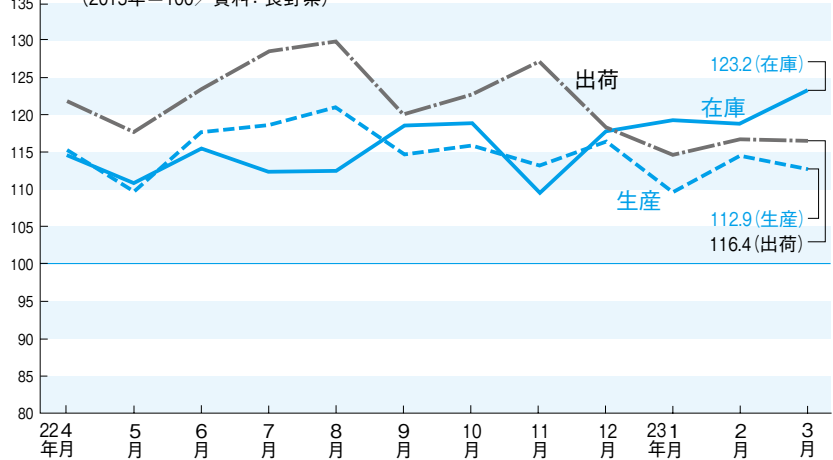
(速報：季節調整済指数)

生産は112.9(前月比▲1.4%)で2カ月ぶりの低下、出荷は116.4(同▲0.3%)で2カ月ぶりの低下、在庫は123.2(同+3.7%)で2カ月ぶりの上昇となりました。

◇前年同月比(原指数)

生産は125.4(前年同月比▲12.1%)で3カ月連続の低下、出荷は131.2(同▲9.8%)で2カ月ぶりの低下、在庫は117.2(同+5.6%)で18カ月連続の上昇となりました。

●長野県鉱工業の生産・出荷・在庫指数(季節調整済)の推移
(2015年=100/資料：長野県)



- [生産] 上昇…はん用・生産用・業務用機械、情報通信機械、化学など5業種
低下…電子部品・デバイス、木材・木製品、食料品など12業種
- [出荷] 上昇…はん用・生産用・業務用機械、情報通信機械、プラスチック製品など6業種
低下…電子部品・デバイス、木材・木製品、金属製品など10業種
- [在庫] 上昇…はん用・生産用・業務用機械、電子部品・デバイス、その他など9業種
低下…電気機械、プラスチック製品、紙・紙加工品など7業種

月例調査

全産業の「売上高」は横ばい

前回調査 2023年3月

◇5月調査による[北信地区の経済状況]

全産業(不動産業・旅館業除く)の売上高前年比「増加・減少」割合は、前回に比べ「増加」割合(35

%)が2割減少、「減少」割合(31%)が横ばい、「不変」割合(35%)は2割増加、全体としては横ばいの状況です。

●売上高(生産高・施工高)前年比「増加・不変・減少」割合

矢印は前回調査比 (3ポイント以上の動き) ↑ 増加 → 不変 ↓ 減少
🔄 改善 ⇄ 不変 📉 悪化

業種	前回	今回	変化	改善/悪化	社数	回収率	30人未満	30人以上
全産業	36.8 →	34.7	減少	改善	191社	84.9%	71.2%	28.8%
製造業	25.0 ↓	28.1 ↓	減少	悪化	196社	87.1%	72.4%	27.6%
建設業	35.0 ↓	40.0 ↑	増加	改善	66社	82.5%	62.1%	37.9%
卸小売業	28.6 ↑	47.6 ↓	減少	悪化	61社	87.1%	90.2%	9.8%
サービス業	28.6 →	28.6	不変	改善	42社	89.4%	81.0%	19.0%
輸送業	60.0 ↑	10.0 ↓	減少	悪化	7社	87.5%	85.7%	14.3%
外食業	80.0 ↓	20.0 ↓	減少	悪化	10社	100.0%	10.0%	90.0%
外食業	80.0 ↓	0.0 ↓	減少	悪化	10社	100.0%	50.0%	50.0%

製造業

食料品、金属加工品、一般機械、電気機械、自動車部品、精密機械

「生産高」精密機械が増加するも、全体は減少

製造業の生産高前年比「増加・減少」割合は、前月に比べ「増加」割合(25%)が9割減少、「減少」割合(47%)が11割増加、「不変」割合(28%)が3割減少、全体として減少の状況です。

●生産高前年比「増加・減少」割合(%)

製造業	前回	33.9	30.6	35.5
	今回	増加 25.0	不変 28.1	減少 46.9
食料品		35.7	28.6	35.7
金属加工	-0.0	38.5	61.5	
一般機械	-0.0	40.0	60.0	
電気機械	33.3	16.7	50.0	
自動車部品	25.0	25.0	50.0	
精密機械	42.9	14.2	42.9	

[業種別] 増加…精密機械

横ばい…食料品・自動車部品

減少…金属加工・一般機械・電気機械

[機械稼働] (前回比)稼働率 横ばい

上昇割合 (11%) → 20%

下降割合 (16%) → 24%

[受注状況] 受注量(前回比) 上昇

増加割合 (10%) → 15%

減少割合 (24%) → 25%

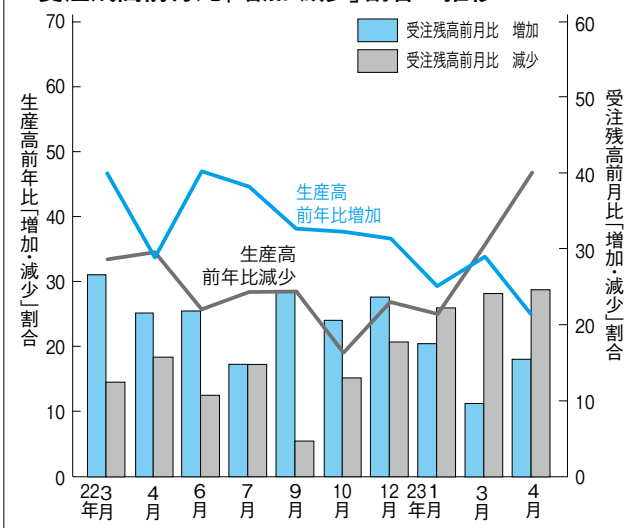
受注残高(1.6ヵ月) → 1.8ヵ月

[受注基調] (前回比) 上昇

上昇割合 (18%) → 18%

下降割合 (30%) → 27%

●生産高前年比「増加・減少」割合と受注残高前月比「増加・減少」割合の推移(%)

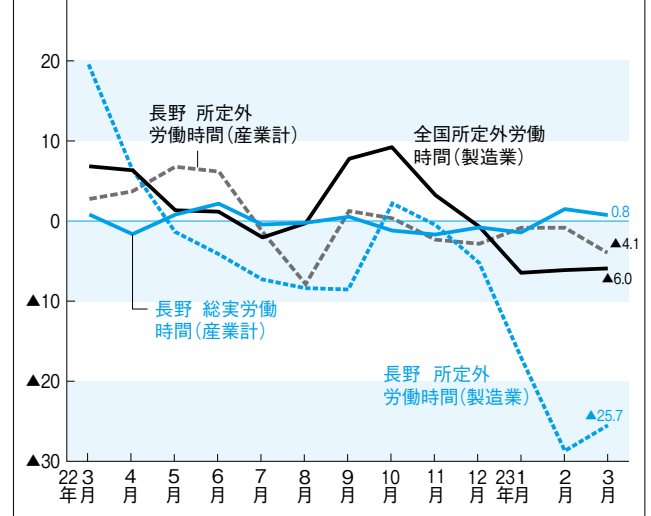


企業からのコメント

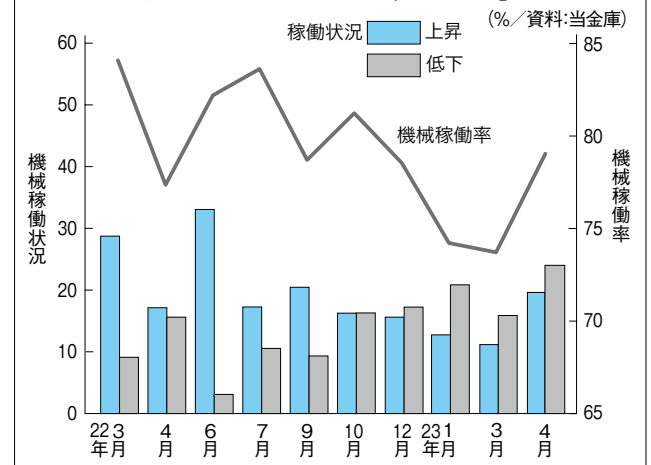
- ☆GWの前あたりから、工場の生産キャパを超える受注があり、供給が追いつかない状況になっている。TV放映の影響かもしれない。(なめ茸)
- ☆★前年の同時期に比べ売上げが落ちているのは、コロナ禍の特需がなくなり例年並みになったから。ここから中元シーズンにかけてどう動くか、物価値上がりの波のなか注視していきたい。(ソバ製造)
- ☆車載部品関連については、メーカーによって受注にバラツキがあるが、総じて増加傾向にあり順調である。(リードフレーム)
- ★☆業種による変動があり、半導体関連は低迷しているが、制御盤関係は増加基調である。(機械)
- ☆自動車業界は、半導体のほか機能部品の不足から何度も生産調整を行ってきたが、4月以降は部品調達の見通しもつき、本来予定していた生産態勢に戻りつつある。(トランスミッション内蔵部品)

●長野県の労働時間の動き(前年同月比)

規模30人以上(%)資料:長野県・厚生労働省



●機械稼働率と機械稼働状況前月比「上昇・低下」割合の推移



建設業

総合建設、土木工事、建築、各種設備

「施工高」総合建設が減少するも、全体は増加

概況

建設業の施工高前年比「増加・減少」割合は、前回に比べ「増加」割合(35%)が3割減少、「減少」割合(25%)が11割減少、「不変」割合(40%)が14割増加、全体としては増加の状況です。

●施工高前年比「増加・減少」割合(%)

建設業	前回	37.7	26.2	36.1
	今回	増加 35.0	不変 40.0	減少 25.0
総合建設業		50.0	30.0	20.0
土木工事業		16.7	41.6	41.7
建築業		26.1	56.5	17.4
各種設備業		57.1	28.6	14.3

〔業種別〕 増加…土木工事・建築・各種設備
減少…総合建設

〔受注状況〕 受注残高(前回比) 横ばい
「多い・適正」割合 (72%) → 73%
「少ない」割合 (28%) → 27%

4月の公共工事 (東日本建設業保証取扱分)

長野県の4月の発注合計は、387.6億円(前年同期比+48.0%)となりました。前年比プラスは「県」の179.8億円(同+45.1%)、「その他」の125.8億円(同+209.7%)。マイナスは「国」の73.9億円(同▲60.1%)、「市町村」の74.6億円(同▲4.5%)でした。

北信地区市町村の発注合計は45.1億円(同+160.2%)で、うち長野市は16.1億円(同+68.9%)でした。

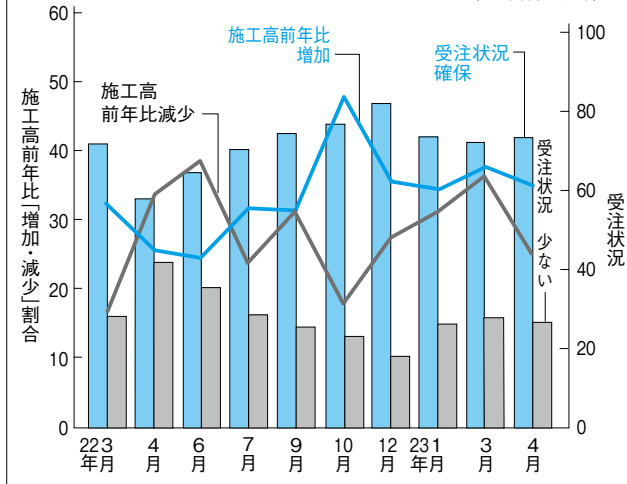
●建設業保証取扱分から見た長野県と北信地区市町村の公共工事の状況(2023年4月)

(単位=百万円/資料:東日本建設業保証株)

		2023年4月	前年同月比
長野県	国	738	▲60.1%
	県	17,983	+45.1%
	市町村	7,458	▲4.5%
	そのほか	12,578	+209.7%
	合計	38,756	+48.0%
北信地区(内長野市)	市町村	4,514	+160.2%
	(内長野市)	1,610	+68.9%

●施工高前年比「増加・減少」割合と受注状況の推移

(%/資料:当金庫)



企業からのコメント

- ★資材価格が2割以上上がっているが、受注物件の価格がなかなか上がらず、さらに商社・メーカーが競争相手になっているので、今までのような受注方法では仕事が取れなくなってきている。(建築板金)
- ★注文住宅が苦戦している。住宅展示会を開催しても集客ができない状況。(総合建設業)
- ☆★県内の商業施設のリニューアル案件は多数あるが、日程が重なって全ての受注ができず残念。(内装業)

4月の新設住宅着工戸数

長野県の4月の新設住宅着工戸数は873戸(前年同期比▲8.6%)でした。持家が509戸(同▲8.8%)、貸家が128戸(同▲33.7%)、分譲が235戸(同+16.9%)、給与が1戸(同▲66.7%)です。

北信地区の4月の新設住宅着工戸数は246戸(同+12.8%)でした。持家が137戸(同▲6.8%)、貸家が46戸(同+48.4%)、分譲が63戸(同+61.5%)、給与が0戸(同▲100.0%)です。

●北信地区と長野県の新設住宅着工戸数

(2023年4月)

(資料:長野県)

		持家	貸家	分譲	給与	合計
北信地区	4月	137戸	46戸	63戸	0戸	246戸
	(内長野市)	72戸	23戸	48戸	0戸	143戸
	前年同月比	▲6.8%	+48.4%	+61.5%	▲100.0%	+12.8%
	(内長野市)	▲5.3%	▲14.8%	+100.0%	—	+12.6%
長野県	4月	509戸	128戸	235戸	1戸	873戸
	前年同月比	▲8.8%	▲33.7%	+16.9%	▲66.7%	▲8.6%

卸小売業

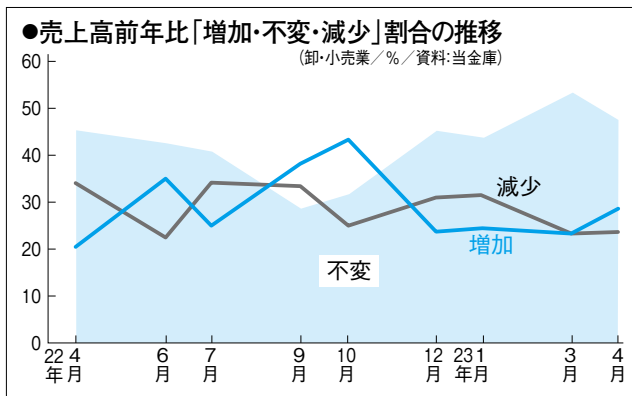
卸売業、小売業

「売上高」小売が増加、卸売は減少

卸小売業の売上高前年比「増加・減少」割合は、前回に比べ「増加」割合(29%)が5ポイント増加、「減少」割合(24%)が1ポイント増加、「不変」割合(48%)が6ポイント減少し、全体として売上げは増加の状況です。

●売上高前年比「増加・減少」割合(%)

卸小売業	前回	23.3	53.4	23.3
	今回	増加 28.6	不変 47.6	減少 23.8
卸売業		18.8	49.9	31.3
小売業		34.6	46.2	19.2



【業種別】 増加…小売業 減少…卸売業

4月の消費者物価指数(長野市) 2020年基準=100

◇総合指数(確報値)……106.5 (20カ月連続プラス)

(前月比+0.7%、前年同月比+4.2%)

上昇…「家具・家事用品」「教養娯楽」「食料」「教育」
「保健医療」「被服及び履物」

下落…「光熱・水道」「諸雑費」

◇生鮮食品を除く総合指数…106.4 (21カ月連続プラス)

(前月比+0.9%、前年同月比+4.2%)

企業からのコメント

- ★スポーツ用品をインターネットで購入する世代が増加してきた。店舗販売の限界を感じる。(運動具店)
- ★春先の寒暖差が大きかった影響で、果実の花芽に霜が当たり入荷は減少の予想。今年も果物の安定入荷は望めない。(青果卸)
- ☆飲食店の売上げは少しずつコロナ前に戻ってきているが、ホテル等の宴会はまだ回復していない状況である。(酒類卸)
- ★コロナ禍の3年間は、消費者マインドの変化によってみやげ品の売上げが大幅に減少している。(土産品)

サービス業

サービス、輸送、外食、観光、不動産

「売上高」輸送・外食は増加、サービスが減少

サービス業 売上げ高前年比「増加」割合は14ポイント減少の57%、「減少」割合は14ポイント増加の14%、「不変」割合は横ばいの29%と、売上げは減少の状況です。

輸送業 売上げ高前年比「増加」割合は16ポイント増加の60%、「減少」割合は3ポイント減少の30%、「不変」割合は12ポイント減少の10%と、売上げは増加の状況。タクシーは横ばい、運輸は増加です。

外食業 売上げ高前年比「増加」割合は8ポイント減少の80%、「減少」割合は13ポイント減少の0%、「不変」割合は20ポイント増加の20%と、売上げは増加の状況です。

観光(旅館)業 入込数は平均で前月比6ポイントの減少、前年同月比は23ポイントの増加で、宿泊利用は伸びています。

不動産業 需給状況は前回に比べ、「双方手控え・どちらも低調」が20ポイント減少の0%、「引合いやや増加」が15ポイント増加の25%でした。

企業からのコメント

- ☆1万人規模のイベントによる需要拡大と、夜の飲食店に行く人が増えたことによって売上が増えている。また、週末にかけ人流も増えている。(タクシー)
- ☆★地元の集会(老人会)等は増加してきたが、団体旅行の利用はコロナ前に戻ることはない。(和風ホテル)
- ★依然として原油高等の問題はあるが、“2024年問題”への対応に苦慮している企業が多い。また、物価高の影響で食品や消費材の荷動きが悪い。(トラック輸送)

●売上高前年比「増加・減少」割合(%)

サービス業	前回	71.4	28.6	0.0
	今回	増加 57.1	不変 28.6	減少 14.3
輸送業	前回	44.4	22.3	33.3
	今回	60.0	10.0	30.0
うちタクシー業		100.0		8.8
うち運輸業		42.9	14.2	42.9
外食業	前回	87.5	0.0	12.5
	今回	80.0	20.0	0.0

人手不足の対応策

「賃金・処遇等の改善」52% 「業務の効率化」46%
 「定年延長・再雇用等高齢者の活用」25%

企業アンケート
 「人手不足」③
 2023年3月調査

従業員が会社に要望することは何か

「給与等のアップ」69% 「長時間労働の削減」8% 「休暇の取得促進」7%
 「福利厚生の充実」3% 「仕事上のノルマ改善」2%

人手不足の対応策 「賃金・処遇等の改善」が52%、「業務の効率化」が46%、「定年延長・再雇用等高齢者の活用」が25%、「従業員の兼任化」が22%、「IT化・設備導入による省力化」が20%、「分からない」は7%でした。

従業員が会社に要望すること 「給与等のアップ」が69%、「長時間労働の削減」が8%、「休暇の取得促進」が7%、「福利厚生の実充」が3%、「仕事上のノルマ改善」が2%、「仕事内容の変化」が1%、「特になし」は7%でした。

「賃金・処遇等の改善」(52%)がトップで、以下「業務の効率化」(46%)、「定年延長・再雇用等高齢者の活用」(25%)、「従業員の兼任化」(22%)、「IT化・設備導入による省力化」(20%)、「業務の一部外注化」(17%)、「福利厚生の実充」(15%)が2ケタとなり、「外国人の採用」が7%、「分からない」は7%でした。

従業員規模で見ると、30人未満は「福利厚生の実充」(16%)が4割、30人以上より高く、30人以上は「従業員の兼任化」(32%)が13割、「定年延長・再雇用等高齢者の活用」(34%)が12割、「賃金・処遇等の改善」(58%)が8割、「業務の効率化」(52%)と「外国人の採用」(12%)がともに7割、30人未満より高くなっています。

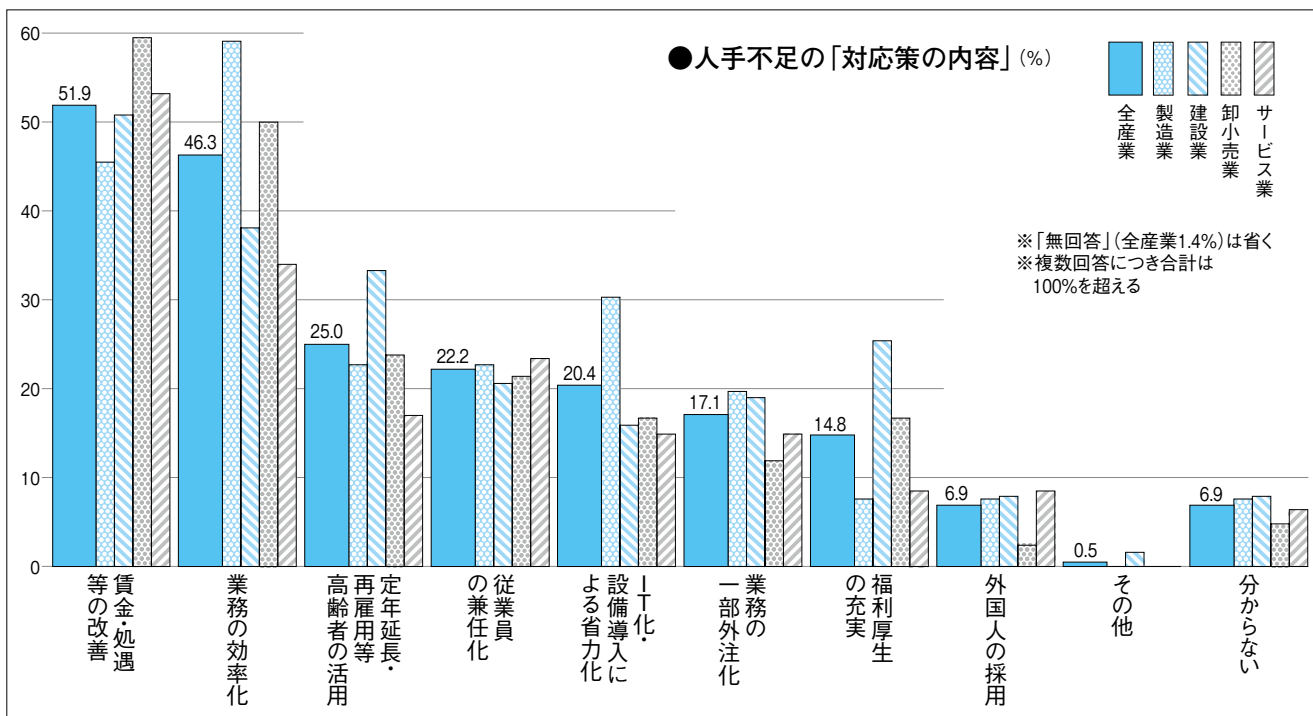
◇4業種の状況

製造業 「業務の効率化」(59%)、「IT化・設備導入による省力化」(30%)、「業務の一部外注化」(20%)が他業種に比べ最も高くなっています。他方「賃金・処遇等の改善」(46%)、「福利厚生の実充」

人手不足の対応策

- 「賃金・処遇等の改善」52%
- 「業務の効率化」46%
- 「定年延長・再雇用等高齢者の活用」25%
- 「従業員の兼任化」22%
- 「IT化・設備導入による省力化」20%

「人手不足の対応策として考えられる内容」を聞きました。



(8%)は他業種に比べ最も低くなっています。

建設業 「定年延長・再雇用等高齢者の活用」(33%)、「福利厚生の実充」(25%)が他業種に比べ最も高くなっています。他方「従業員の兼任化」(21%)は他業種に比べ最も低くなっています。

卸小売業 「賃金・処遇等の改善」(60%)が他業種に比べ最も高くなっています。他方「業務の一部外注化」(12%)、「外国人の採用」(2%)は他業種に比べ最も低くなっています。

サービス業 「従業員の兼任化」(23%)、「外国人の採用」(9%)が他業種に比べ最も高くなっています。他方「業務の効率化」(34%)、「定年延長・再雇用等高齢者の活用」(17%)、「IT化・設備導入による省力化」(15%)は他業種に比べ最も低くなっています。

従業員が会社に要望することは何か

- 「給与等のアップ」69%
- 「長時間労働の削減」8%
- 「休暇の取得促進」7%
- 「福利厚生の実充」3%
- 「仕事上のノルマ改善」2%
- 「特になし」7%

「従業員が会社に要望することは何か」を聞きました。

最も高くなったのは「給与等のアップ」(69%)、次いで「長時間労働の削減」(8%)、「休暇の取得

促進」(7%)、「福利厚生の実充」(3%)、「仕事上のノルマ改善」(2%)、「仕事内容の変更」(1%)の順で「特になし」は7%でした。

従業員規模で見ると、30人未満は「休暇の取得促進」と「特になし」がともに8%で、30人以上より6%高く、30人以上は「給与等のアップ」(76%)が9%、「長時間労働の削減」(12%)が5%、30人未満より高くなっています。

◇4業種の状況

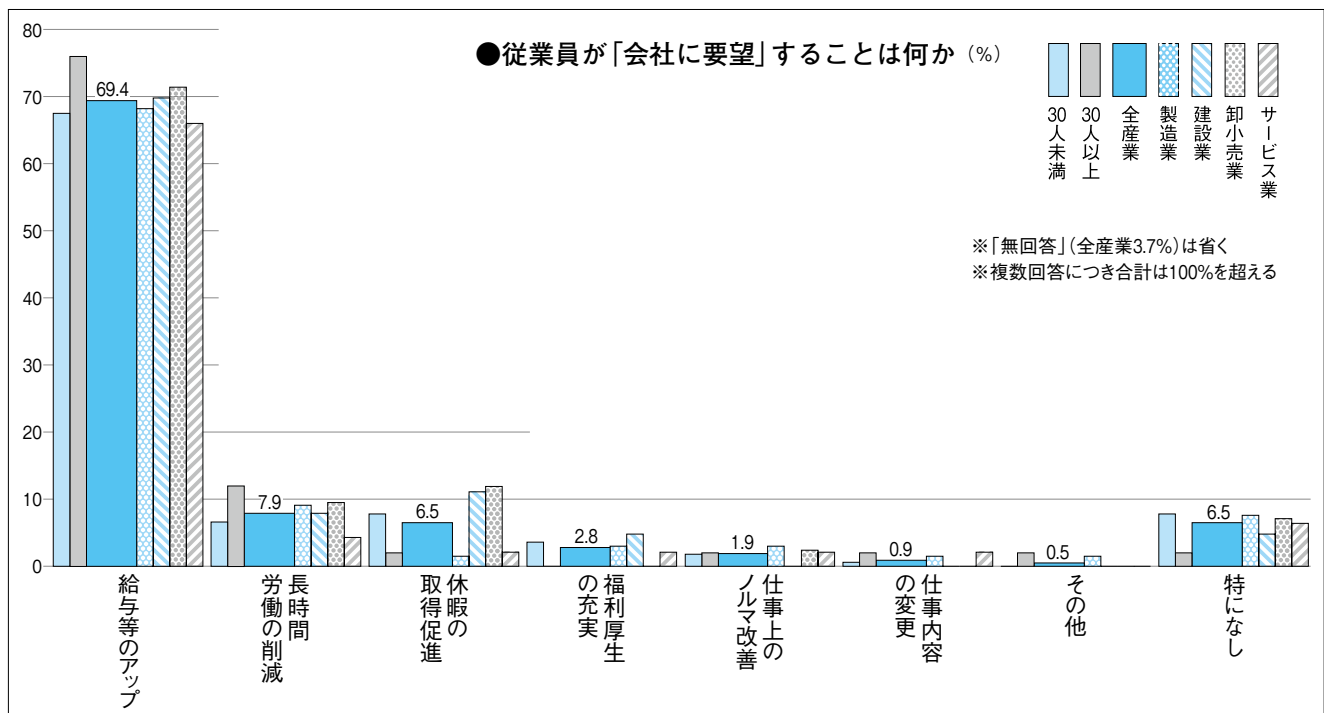
製造業 「仕事上のノルマ改善」(3%)と「特になし」(8%)が他業種に比べ最も高くなっています。他方「休暇の取得促進」(2%)は他業種に比べ最も低くなっています。

建設業 「福利厚生の実充」(5%)が他業種に比べ最も高くなっています。他方「仕事上のノルマ改善」と「仕事内容の変更」(0%)「特になし」(5%)は他業種に比べ最も低くなっています。

卸小売業 「給与等のアップ」(71%)、「休暇の取得促進」(12%)、「長時間労働の削減」(10%)が他業種に比べ最も高くなっています。他方「福利厚生の実充」と「仕事内容の変更」(0%)は他業種に比べ最も低くなっています。

サービス業 「仕事内容の変更」(2%)が他業種に比べ最も高くなっています。他方「給与等のアップ」と「長時間労働の削減」(0%)は他業種に比べ最も低くなっています。

◇次号は「人材育成」に関するアンケートを予定





社員に求めるのは フレキシブルな心遣い

株式会社 地域計画センター
会長 山口英男さま

●創業の経緯をお伺いします…

東京での学生生活を終え、長野市内の土木コンサル会社に就職、営業職に就きました。営業職では力戦奮闘の結果、実績を上げることが出来ました。しばらくして労働組合の書記長を経験し、組合活動の中で労働者目線を学ぶとともに、労使交渉を通じ経営者側との交渉術を学ぶ貴重な経験をしました。また、組合活動の内容は条件闘争に終始するのではなく、例えば従業員のスキルアップのための研究や学習支援などを会社に要望するなど、広義の意味での経営参加型の提言活動に重きを置き、こうした活動は紙面にも取り上げられたこともありました。こうした営業職や組合活動を行う中で、異業種の方々との交流の機会も増え、この時の人間関係が現在の“企業経営の基盤”となっています。

会社での営業職の成績は順調でしたが、いつしか会社と私の企業のあるべき姿の違いが露呈して来たため、昭和61(1986)年31歳の時に退職し、同年8月に(株)地域計画センターを創業しました。そして、平成27(2015)年に60歳を迎え、長男に事業承継して会長職に就いています。

●経営で守ってきたことは…

会社づくりや経営にとって、前職で培った経験や人間関係が役立ちました。私の仕事をする上での基本は「人の役に立ちたい」という思いだったと考えます。私的な考えですが「人の役に立つことを通じ、社会の役に立つ」ことで、自分の存在する意義を感じることが出来ます。そうしたことから、業務以外の地域における社会奉仕活動を数多く担い、そうした活動において

学ぶことが多くあり、結果として社員との良好な関係づくりにもつながりました。

弊社の業務は、長野県が主体ではありますが、関東圏と宮城県に営業範囲を拡大してきましたが、これは、リスクヘッジの一環として異なる商圏への進出を図った結果であります。

商圏拡大の中で、静岡県を重要拠点に置く理由は、一般的に企業が商品開発の際、試供品を最初に出すのが静岡といわれており、関東と関西の板挟みの中で、顧客の多様なニーズに対する反応をリサーチする絶好の地域であるうえ、東西の企業の激戦地の中で、弊社の企業力を成長させることの出来る場だと考えたからです。また、売り上げに対する基本方針は、特定顧客の売り上げ占有率の上限は20%を越すことの無いようにすることで、経営の安定成長を果たすことが出来る黄金比とし、重要な受注バランスと考えています。

企業活動における過誤は避けようの無いものであり、常にそうした状況を念頭として社内体制の見直しと覚悟を自身に言い聞かせる必要があります。反面、私は過誤が大きいほど、結果的にチャンスが大きいと考えます。お客様に対して企業、代表者としての責任は言うまでもなく、真正面から誠実に取り組むことが事態の挽回につながり、お客様の損失を最小限に留めることが出来ます。また、社員は会社の対応(姿勢)を見ています。個人に責任を押し付けるのではなく、過誤が起きることを前提に会社組織として見直す絶好の機会となります。これまで、こうした対応から、ご迷惑をお掛けしたお客様からは一層の信頼を頂き、社員は安心して日々の業務に励んでいます。

●業務の概要をお聞きます…

創業当初は、土木コンサルタント(測量・設計)および都市計画コンサルタント、環境調査を事業に取り組みましたが、その後は漏水調査、土木・建築における品質検査(非破壊探査等)を事業化し、一級建築士事務所登録を契機に建築コンサルタントに事業拡大しています。こうした業務は複

合的に関係し合うため、他社のおよばない調査や検査、結果報告等に高い評価を頂いています。

こうした事業拡大は、「相談された仕事は、断るな」と社員に言い続けているからです。経験の無い業務は、知人友人をはじめ大学・研究機関、協力会社等で情報収集し、社内会議で事業化の方向を探ります。場合によっては、複数の企業をプロデュースすることで事業化します。そうしたことから「困ったら地域計画センターに相談すれば、なんとかしてくれる」と評価され、顧客からは特別な位置づけを頂いています。

●社員に求めるものは…

従業員の女性社員は半数近くを占め、総務経



社屋



壁面打診検査(建築)

理部や企画調整部、内業チームではチーフを任せており、欠くことの出来ない存在であります。そして、社員の定着率は高く、結婚により退職した女子社員も子育てに余裕の出来た段階で再度務めて頂いています。

社員に求めるものは、質の高い仕事をする事は当たり前のことで、「顧客満足」を中心に考えてほしいと思います。知識や技能は場合によって費用で買い求められますが、“心遣い”は身につけているものです。このことに気付くことが非常に重要なポイントです。私たちの業種はサービス業であり、お客様から業務に際し「良い方に来ていただいた」と言ってもらえる社員となるために、お客様の不安や期待、求めているものに気遣い業務を進めます。こうした社員の姿から、弊社への信頼が増しています。

柔軟性を持ち仕事に臨み、懐深くお客様の要望に応えることが出来れば、出来ないことは何もありません。



トンネル壁面探査(非破壊)

●事業の概要

設立 1986(昭和61)年
資本金 2,000万円
代表者 山口泰英
業務 測量・設計コンサルタント
事業所 長野市大字長池字河原1924-2(木工団地内)
URL <http://www.cpc-notice.co.jp>

●沿革

1986(昭和61)年 山口英男が設立
2015(平成27)年 山口泰英が代表取締役に就任

北信濃 明治時代の風景

(15) 権堂町・大門町・旧県庁周辺

長野郷土史研究会会長

小林 一郎



今年度は、明治30年(1897)10月に出版された善光寺周辺の案内書、『善光寺^{びとり}独案内』の挿絵を紹介いたします。すでに活版印刷の時代になっていたのです。これは長野市で出版された最後の木版本です。今回は長野市の権堂町・大門町・旧県庁周辺の図です。

中央通り

中段を左右に貫いているのは旧北国街道で、現在の中央通りです。右手が北で、善光寺のある方角です。この通りが現在の広さに拡幅されたのは大正13年(1924)のことで、それ以前は狭い道でした。

絵の中央から右(北)が大門町で、江戸時代は善光寺宿として旅籠屋^{はたご}が建ち並んでいました。明治時代には、鉄道の開通により増加した善光寺参拝者を宿泊させるため、3階建て、4階建てといっ

た大旅館が建てられました。描かれている「東洋館」(3階建て)は、その1つです。

鐘鑄川に沿って

附属小学校

「附属小学」とあるのは、現在の長野市立図書館(長門町)の場所にあった長野県師範学校附属小学校です。明治44年(1911)に現在の信大教育学部の敷地内に移動し、跡地には昭和4年(1929)に長野県立図書館ができました。

信濃毎日新聞

「附属小学」の左にある「信濃新聞」は、現在の信濃毎日新聞社です。旭町の、現在の信濃教育会の場所にありました。紙名はすでに信濃毎日新聞でしたが、社名は信濃新聞社だったのです。

大林区署

「大林区署」は現在の森林管理局に当たる長野大



「善光寺独案内」より権堂町・大門町・旧県庁周辺の図

林区署で、やはり旭町にありました。

監獄署

明治初期から懲役場が設けられていましたが、明治19年(1886)から長野監獄となりました。大正11年(1922)に長野刑務所と改称し、昭和35年(1960)に須坂市に移転しました。

国道406号に沿って

長野県庁

最初の長野県庁は、明治4年(1771)に西町の西方寺に置かれていましたが、ここに描かれているのは明治7年(1874)に現在の信州大学教育学部の東端に新築された長野県庁です。明治41年(1908)に焼失し、大正2年(1913)に現在地に移転しました。

上水内郡役所

「長野県庁」の右にある「郡役所」は、上水内郡役所です。郡が政治機能を持つようになったのは明治12年(1879)のことで、上水内郡役所は最初は大勸進に置かれていましたが、明治14年(1881)に県庁北の桜枝町に新築移転しました。

長野県師範学校

教員を養成する「師範学校」は、明治6年(1873)に師範講習所として始まり、明治8年(1875)に長門町の現在の長野市立図書館の場所に校舎を新築して、長野県師範学校と改称しました。明治20年(1887)には、現在の信州大学教育学部の場所に移りました。この絵の描かれた明治30年(1897)には、高野辰之、島木赤彦、太田水穂などが、生徒として学んでいました。

長野中学校

旧制長野中学校は明治17年(1884)に開校し、明治26年(1893)に西長野の師範学校西に新築移転しました。昭和15年(1940)に上松に移転し、現在は長野高校となっています。

中央通り東側

長野遊郭

長野の「遊郭」は、明治11年(1878)に現在の東鶴



長野市立図書館前に残る「明治天皇行幸之處」の碑。明治天皇は明治11年(1878)にここにあった長野県師範学校に行幸された

賀町に設置されました。明治13年(1880)には48軒の貸座敷に娼妓が233人もいて、県内最大の遊郭でした。

往生院

「往生院」は浄土宗で、善光寺が火災に遭った時この寺が仮堂となり、仮堂を意味する権堂が地名になったという、いわば権堂の発祥地です。

千歳座

「千歳座」は、明治25年(1892)に権堂に開場した芝居小屋です。この『善光寺独案内』が出版された明治30年(1897)には、県下で初めて映画が上映されました。現在の長野相生座・ロキシーです。

明行寺

「明行寺」は、裏権堂にある真宗大谷派の寺院です。往生院とともに、善光寺七寺の1つに数えられる場合があります。

普濟寺

田町にある曹洞宗の寺院です。この図が描かれた明治30年(1897)当時は明行寺の北東にありましたが、明治40年(1907)に緑町通りの東側の現在地に移転しました。

7月号は「大門町周辺」の予定です。

この頁は長野信用金庫のホームページでカラーにてご覧いただけます [長野信用金庫](#) すかい

◆コロナウイルスは感染症法上「5類」に引き下げられたが、マスクの着用はどうか
状況により「マスク着用をやめる」58% 「常に着用」21% 「分からない」21%

「コロナウイルスの感染症法上の扱いが「5類(季節性インフルエンザ等)」に引き下げられたが、日常的なマスクの着用はどうか」を聞きました。

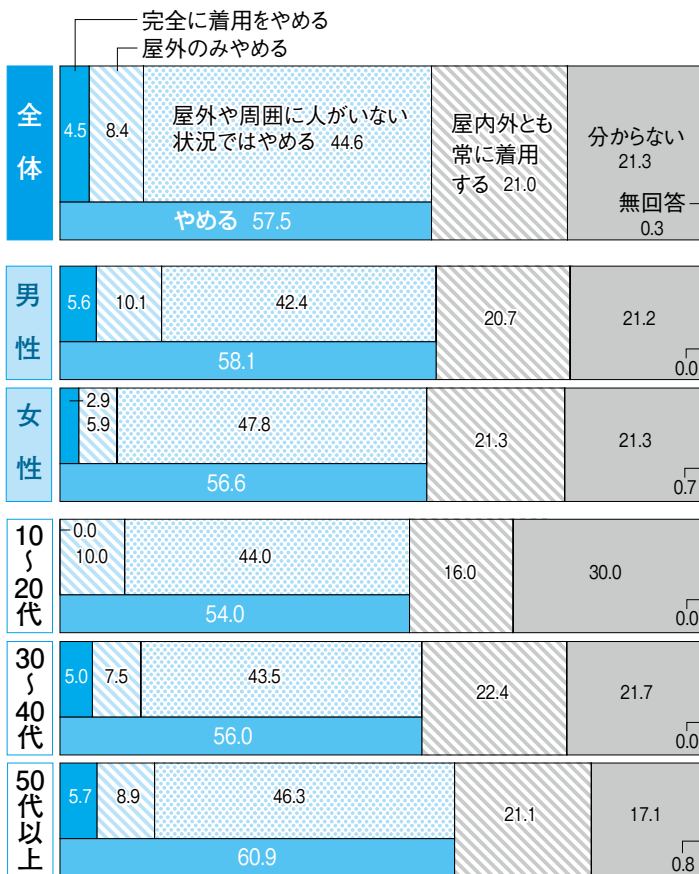
全体を見ると、「完全に着用をやめる」(5%)と「屋外のみやめる」(8%)と「屋外や周囲に人がいない状況ではやめる」(45%)を合わせた「やめる」は6割弱の58%で、「屋内外とも常に着用する」は21%、「分からない」は21%となりました。

男女別で見ると、男性の「やめる」は58%、「常に着用」は21%、「分からない」は21%で、全体と同率、女性は同様に57%、21%、21%となり、全体とほぼ同率になりました。

世代別で見ると、10~20代は「やめる」が54%、「常に着用」が16%、「分からない」が30%、30~40代は同様に56%、22%、21%、22%、50代以上は61%、21%、17%となり、世代間の差はやや開きました。

〈当金庫・2023年3月調査〉

●コロナウイルスは感染症法上「5類」に引き下げられたが、「マスクの着用」はどうか (%)



●みなさまの税務相談のご案内 [7月]

(注)上の店名は開催場所、下の()内店名はその相談日に含まれる対象店です。

開催日	午前	午後	開催日	午前	午後
7月 4日 火	城北支店 (若槻支店)	柳原支店 (東長野支店)	7月 19日 水	篠ノ井支店 (川柳支店)	川中島駅前支店 (川中島支店)
6日 木	南支店 (七瀬支店)	吉田支店 (古里支店)	21日 金	若穂支店	小布施支店 (中野支店)
7日 金	墨坂支店 (須坂支店・太子町支店)	飯山支店 (山ノ内支店)	25日 火	大門町支店 (桜枝町支店)	善光寺下支店 (権堂支店)
11日 火	大豆島支店 (長池支店)		26日 水	本店営業部	
12日 水	屋代支店 (稲荷山支店)	戸倉支店 (上山田支店・坂城支店)	27日 木	本 部	
14日 金	更北支店 (松代支店)	伊勢宮支店 (石堂支店)	28日 金	本 部	

